

県民総ぐるみ教育推進研修会（南那珂地区）事例インタビュー

飢肥地区学校支援地域本部の実践事例（日南市）

～地域と学校が育てる、ふるさと飢肥に誇りをもつ子どもたち～

取材日：令和2年11月24日（火）

聞き手：中部教育事務所 築地原連携推進アドバイザー

回 答：日南市飢肥地区学校支援地域本部	コーディネーター	宮田 由美子 氏
城下町飢肥まちづくり協議会	会 長	服部 武彦 氏
飢肥小学校	教 諭	平元 哲郎 氏
飢肥中学校	教 諭	須崎 孝一 氏
日南市教育委員会生涯学習課	副主幹	岡山 明美 氏

文責：中部教育事務所

Q1 飢肥小中学校における地域と連携・協働した活動にはどのようなものがあるのでしょうか。

（平元）大きく校外と校内の二つの活動に分けられます。校外では、遠足や、低学年における探検等生活科における学習内容です。担任だけではどうしても安全面で十分でない場合、宮田コーディネーターをお願いしてボランティアをつけてもらい、安全面に配慮した付き添い、見守り等の活動をしてもらっています。校内では、特に多いのが家庭科です。調理実習の時やミシン指導の時に入ってもらっています。ミシンの学習で、動かし方や縫い方の指導の時、担任だけでは手が回らない時等に支援をしてもらっています。

（須崎）身近な社会に開かれた教育課程ということで、大きく二つに分けられます。一つは、地域と教材を育てる活動ということで、体育大会を中心に郷土の伝統である「泰平踊り」の伝承です。二つ目はキャリア教育にもなってきますが、「飢肥の町発見」です。観光町としてだけでなく飢肥の人の生き様も発見していこうという学習をしています。特に「飢肥の町発見」では、発信までしていけたらと考えています。

（宮田）支援活動は、もう10年近く行っています。50名ぐらいボランティアの登録があります。私の方で連絡をして、ボランティアに来てもらっています。

（平元）学校経営案の中に、『学校支援地域本部事業年間活動計画』というのが入っています。これに基づいて担任が早めに宮田さんに連絡をして、ボランティアの方の確保をしてもらっています。

（宮田）年間活動計画については、私も持っています。私の方から先に先生方に、これはどうなっていますかと声かけをすることもあります。年間活動計画を見ると何をするか分かりますし、できるだけ早目に取りかかったほうがいいからです。

（須崎）小学校の方では以前より泰平踊りをしていましたが、中学校の体育大会では以前は組体操をしていました。しかし、生徒数の減少で組体操が安全面のこともありできなくなりました。そこで地域に指導者の方もいらっしゃるし、地域の文化でもある泰平踊りの中学校バージョンをしてみないか、という意見が出まして、泰平踊りに取り組み、今年が2年目になります。

初年度は、小学校より衣装をレンタルしましたが、地域の方が熱く反応してくださり、寄付を募っていただきました。今年度140万円も寄付していただき、自前の衣装をそろえることができました。今年の体育大会ではこの衣装で踊ることができたのですが、新型コロナの関係で、地元の祭り（飢肥城下

祭り)で披露することができませんでした。残念でしたが、このような地区の方々のスピーディな対応にびっくりしています。踊りでは地区の方に一つ一つ丁寧に指導してもらっています。

(服部)本町組泰平踊り保存会の人たちが、小学校で30、40年近く前から泰平踊りを教えてくださっています。中学校では1年目は小学校の衣装を借りて踊っていました。そこで地区の方が、やはり中学生に合った着物を着て踊らないといけない、ということで寄付を募っていただきました。百数十万円集まりました。多分一着が10万円ぐらいかかっています。

(宮田)保存会の方が踊っておられるのと同じ衣装です。踊りの指導につきましては、私が今の仕事をする前から、学校と地区の方との連携ができていまして、直接学校に来て指導をしていただいています。

(平元)小学生は舂肥城下祭りでも踊っています。6年生になると踊れるので、児童は楽しみにしています。泰平踊りをするに当たっては、多くの保護者の方の協力があります。運動会では、子ども達の着付けが大変なので、多くの方に手伝ってもらいました。泰平踊りの保存会の方も来ていただきました。

(服部)小学校の卒業生が中学校でも踊れるいう、伝統の継承ができています。泰平踊りでは、小学校を卒業した中学、高校、大学生のグループが「亀の子会」として活動しています。イベントでは、幼稚園生が出る、小学生が出る、中学生が出る、亀の子会が出る、大人が出るという形で、泰平踊りについては、年代別に続いています。

Q2 泰平踊り以外で、何か小中学校が連携した行事があるのでしょうか。

(平元)中学校入学生説明会で、以前より詳しく6年生や保護者に説明をしてくださるようになりました。来年1月にあるのですが、2時間で計画し授業を見てもらったり、より具体的に保護者に話してもらったりするようにしています。今までより、内容が密になってきています

(須崎)小学校でも地域の学習をしていて中学校でもするのですが、それが段階的な指導ができるようになってきているのではないかと考えています。

小学校2年生で町探検をしますが、中学生は同じ意味合いのものをするのではなく、むしろ舂肥の良さを発見していこうということで、「私たちがプロデュースする舂肥の良さ」に取り組むことにしました。地域のまちづくり協議会からパネルをもらっているのですが、そこにある『新発見 再発見 写真展』という企画物に参加しようということになりました。舂肥の良さを中学生の視点から見るとどうだろうということで、写真を応募しました。写真の評価はプロの写真家が行うことになっていて、結果を楽しみにしています。写真を撮るに当たり、市のプランニングデザイナーの方に、どうやってプロデュースしたらよいかの講義をしていただきました。生徒は企画書を作り、こんなふう売り込めばいいのではないかと決め、写真を撮りに行きました。「食べ歩き」というテーマだったのですが、私たちが考えていたのと違う写真を撮ることができていました。

(服部)これは対象者が中・高校生の写真展で、地元の写真家二人に審査をお願いしています。10万円の予算で行っています。

(須崎)これからは、最終的には職場体験等を経験していく中で、例えば市役所の方にお世話になる時企画の段階から関わることができるようなになれば良いと考えています。

本校には総合的な学習の時間のプロジェクトチームがあるので、そこで各学年の取組を決め将来のビジョンにつながるようなことをしています。本年度は、いろいろとアンテナを張っていたら多くの情報が入り、それらがうまくつながっていきました。

Q3 学校側から、どのようにして宮田さんの方に依頼されるのでしょうか。

(平元) 新しく来られた先生もいらっしゃいますので、年度初めに外部の方を依頼する時の方法を説明しています。『学校支援地域本部事業年間活動計画』があり、宮田さんに依頼する時は、「講師・ボランティア依頼書」に必要事項を書き、遅くとも2週間前には出すように話をしています。私の方からも先生方に、依頼書を出しましたかと声かけをするようにしています。依頼書に検印を受けた後は、直接先生方が宮田さんに出しています。

(宮田) 依頼書には、校長・教頭・教務の検印欄があり、活動内容を知っておられるので、後は私と担任とで細かな連絡を取っています。平元先生や事務室の方にもこういった方が何名来られますと事前に連絡しています。

(須崎) 中学校には、アイデア豊富な先生が多くいらっしゃいます。いいアイデアが出てきて、実践に入る際に「どういうふうにしたらできるだろうか」ということで、宮田さんと相談する体制があります。定期的に行事を行うのではなく、その行事に創意工夫をするために、宮田さんに連絡を取り、助言や支援を受けている状況です。

(宮田) 今年はできていないことがありますが、中学校1年生で「匠の技を傳承しよう」ということで、竹で作る灯籠や飴肥杉を使った箸作りの指導者、茶道教室を地区で指導されておられる方等に依頼して指導してもらっています。その時は中学校でも依頼書を出していただいていたので、中学校でも小学校のようなシステムはあります。また小学校のような年間活動計画の一覧表のようなものはありませんが、地区と連携する学習は教育課程の中に位置付けてあります。

仕事を進めるに当たり、飴肥小学校では活動する部屋を設けていただいている、放課後等に先生方と連絡を取り合っています。飴肥中学校では図書室で行っています。基本的には、月・水が小学校、金が中学校で午後勤務しています。支援活動する日は曜日や学校種に関係なく出勤し、一緒に活動しています。

(岡山) 市内の他の支援地域本部も主に小学校にコーディネーターが常駐しています。しかし、活動する場所は職員室に準備してもらうことが多く、飴肥小学校のように活動する部屋を準備している学校は少ないです。

Q4 宮田さんは地区の方にどのように依頼されておられるのでしょうか。

(宮田) 基本的には電話で連絡を取っています。文書では時間と手間がかかるからです。しかし、例えば交通教室のように詳しく中身が分かった方がいい場合は、計画書等をコピーしたり分かりやすく書き直したりして、代表者の方に渡すようにしています。ボランティアの方は、50名ほどいらっしゃいます。主に活動ごとに支援して下さる団体がありますので、その代表者に連絡をしています。

数年前にできた飴肥中学校の卒業生で構成された団体で「振徳会」も入っている「むらさきの会」というのがあります。100名ほどおられます。ここには事務局長さんがおられ、そこに連絡して、

例えば交通教室がありますから何名ボランティアが必要だと依頼すると見つけてくださいます。校外学習での見守り等大人数が必要な時は、大変助かっています。結成されて5年ぐらいです。

(服部) 学校に協力する、恩返しをする団体をつくろうということで、「むらさきの会」ができました。市郡陸上大会で飴肥中の鉢巻きの色が紫色だったので「むらさきの会」となりました。学校支援を目的とするボランティアの方の集まりです。PTAの参観日の幼児の見守りもしています。

例えば小学校で「昔の遊びをしよう」という学習で、何人かボランティアの方が必要だという連絡が「むらさきの会」にきます。そこで「むらさきの会」がボランティアの手配をします。

Q5 これまでにないような新しい活動等の依頼があった時はどのようにされるのでしょうか。

(宮田) 「むらさきの会」に連絡をしています。

(服部) 以前は、まちづくり推進協議会をとおしてボランティアの方を探してくださいと依頼がきていましたが、今は各活動のリストアップができていますので、直接団体の方に協力依頼の連絡がきています。新しいことの依頼については、みんなに下ろしています。

「むらさきの会」は「城下町飢肥まちづくり推進協議会」の組織の中の団体です。本協議会は40近い団体を抱えています。代議員だけで88名います。

組織として三つの部会があります。安心安全・福祉部会では、連携として児童生徒の登下校指導や青パト巡回活動です。その他高齢者クラブと中学生との交流、小学校ではもちつき大会がありますので、田植えや稲刈り時の見守り活動をしています。

環境・エコ部会では、ここには退職校長会も入っていて、小村寿太郎侯の墓地清掃を小・中学生と一緒にしています。2月のボランティアの日には、中・高校生と連携して清掃活動を行っています。以前台風後の折れた木々の片付けの依頼がきて活動したことがあります。

広報活性化・観光部会では、この観光部会があるのはここ飢肥地区だけだと思いますが、ここには商店会等いろいろな団体が入っています。泰平踊りの指導や校外学習時の見守り活動、地域での世代間交流会を小学校、中学校と連携して行っています。このようにそれぞれの部会で役割を分担して連携活動を行っています。

退職校長会の中に地域のボランティアをしようという努力事項が入っていますので、飢肥地区の退職校長会は、ボランティアとして子ども達と一緒に小村寿太郎侯の墓地清掃をしています。

他地区のまちづくり推進協議会も青パト指導や田植え等の活動をしています。北郷地区では神楽の伝承を学校と連携して活動をされています。本協議会では、本年度より獅子舞を小学校で伝承事業として2ヶ月間、1週間に2回ぐらい練習できないかとお願ひしましたが、新型コロナの関係で今年度は中止としました。予算化しているので、どこか時間を見つけて学校をとおさず、各地区の公民館に参加できる子どもを集めて活動していこうと考えています。

(宮田) 以前は吉野方地区では獅子舞を小学校で行っていました。

Q6 学校や地区では新型コロナの影響でなくなったり延期になったりした行事があり、いろいろと調整等が大変ではなかったでしょうか。

(平元) 1学期は休校となった時点で、今年はやらないな、仕方がないなとしていたのですが、2学期以降は状況を見ながらこれはできるのかどうか、なんとかできないかといろいろと検討しながら進めていくのが難しかったです。

(須崎) 「飢肥城下祭り」が中止になったのが一番大きかったです。この日は登校日として全生徒が男子は「泰平踊り」、女子は「小米桜」という踊りで祭りに参加することになっていました。

「食べ歩き」では、新型コロナのことがちらほら出てきている時期だったので、まちづくり推進協議会の方から開いている店を教えていただきそこにマスクをして回りました。

(宮田) 小学校の福祉学習で、車椅子体験やアイマスク体験をすることとなり、ボランティアの方の手配まで済んでいましたが、中止となりそれぞれの方へお断りの連絡をしました。

(服部) 飢肥城下祭りや各地区のイベントが中止となり、子ども達も参加することができませんでした。そうした中で、「振徳堂」を使って「着物を着て楽しむ会」が着物イベントを行いました。400名近い方が参加されました。着物を着て楽しむということでお宮参りから成人式、結婚式というストーリー

のある内容の濃いイベントでした。消費拡大ということで近くのお店が6店舗ほど出されました。

(岡山) 各校区でも1学期の活動が中止となったりしていますが、2学期はそのしわ寄せの影響が出てきています。なんとか落ち着いてきた中で、また新型コロナが増えていますので今後どうなるか分からない状況です。

Q7 地域連携活動の課題としてどのようなことがあるでしょうか。

(平元) 先生方みんなが大変ありがたく思っています。ボランティア等の依頼をしたらすぐに人数を確保してくださいませし、登下校時の見守り活動に参加してくださる方もとても多いです。飢肥小学校に転勤してきて大変驚いています。本日服部さんの話から、支援する組織がありすぐに対応してくださる方がいる、そうした機動力のある体制があるからいろいろな活動ができているのだなということを改めて知りました。あえて課題としてあげれば、助けていただいている面が多いので、宮田さんにできるだけ負担をかけないようにするために早め早めに依頼等をしていくよう先生方に声かけをしていくことです。今そのことを先生方も心がけていますので、これを今後も続けていくことが課題です。

(須崎) 学校が抱えている課題として、少子化や生徒・保護者の多様性があります。生徒に自立、共生していく力を育成していく時に学校というアンテナだけでは小さくて、その子のもつ良さや取り柄、居場所といったものを捉えられません。地域というアンテナの中で、その子の良さ等を捉え、うまく学校と連携してその子の良さについて連絡を取り合えるような形にしていけたら望ましいと思います。そのことを教育課程の中にどう組み入れて具体化していくかが今後大事なことであると思うので、そのことを系統性も含めて整理していく必要があると思っています。

(宮田) この仕事を10年近くしてきてボランティアの方の協力が多かったのですが、その方々の高齢化ということが出てきました。活動をするのはちょっと無理だという声が上がってきました。世代交代をすればいいということで、若い方を見つけているのですが、若い方は仕事をもっておられる方が多く時間に余裕がないので、無理にお願いできないというのがこの事業の中でネックになっています。来年度は大丈夫かなと心配しています。ボランティアというのは無理をお願いできないことであり、お願いするということは時間をくださいということなので難しいことだなと思っています。いいことが始まったのですが、これが持続していくのかなということを危惧しています。

(岡山) ボランティア募集については、各コーディネーターさんをお願いしています。

(服部) 人材バンクの整備が必要ではないかと思っています。動いているのは高齢者の方が多いので、新しい人材発掘をすべき時期に来ていると思います。

高齢者にとって学校との連携は生きがいづくりにもなっているので、いろいろなことで声かけをしていただきたいです。それが地域の活性化にもつながっています。以前は敷居が高いと言われていた学校ですが、その課題の解消にもなっています。もっともっと学校への出入りができるといいなと思います。伝統芸能の継承という部分では、成果が見られつつあるということで、よい面として上がってきていると思います。

Q8 支援していただいている団体の横のつながりはとれているのでしょうか。

(服部) とれています。校長先生もまちづくり推進協議会に入っていますし、PTAも入っています。ただ青パトについては講習会を受けないと乗車はできなくて、先生方は異動があるので先生方に資格をとってもらうのは難しいです。今はPTAの方は地元なので、先生方よりもPTAの方に資格を取ってもらい、今日はPTAがする、というふうな青パトの計画の中に入れていきます。

Q9 まちづくり推進協議会と学校側が学校の実情や教育計画を話し合う場はあるのでしょうか

(服部) 校長先生がまちづくり推進協議会に入っていますし、自治会連合会にも必ず来ていただき学校の現状について報告をされています。

正式な形としての会で、例えばこのような飢肥の子を育てようといった話をしたり、目標やビジョンの共有化を行ったりすることはありません。社会教育の部分では、イベントの反省会や懇親会の折、学校や地区の話が出てきます。その中で新しい企画が出てくることがあります。学校との連携の部分では、評議員が学校に行きますので、学校の教育方針等については分かっていると思います。

Q10 皆さんからそれぞれ今後の展望について教えていただけないでしょうか。

(平元) 毎年年間活動計画については年度末に見直します。子ども達の教育活動にとって効果的なものについては行っていきたいと思っているのですが、安全面を考えて迷うことがあり、止めたものとかできなかつたものがあります。そのように二の足を踏んだものが、宮田さんや服部さんの協力により今年度できたものがあります。来年度も、今年度できたものにプラスして何か新しい活動ができることがあるのではないかと考えているところです。

(須崎) いい形で学校というものをプロデュースしていく時、飢肥地区としての押しの部分と飢肥中学校としての押しの部分とが、縦系と横系とのようにうまく織られていくのが一番いい形だと思います。その中で、「放置してあるものなのか」「保存してあるものなのか」、そしてこれは「今後も保存していったほうがよいものなのか」ということをよく吟味して行って、新しい時代に合う形として残していければ良いと思います。この地区にはすごくいいものが残っているので、今後もいい形で輝いていけば良いと思います。

(服部) 地区としては今後も学校と連携していかなければいけないと思っています。学校が一生懸命指導してくださっている挨拶については、地区の方にも良くしてくれていて、それが地区の人にとって励みになっていて、明日もがんばろうという気持ちになっています。だから今後も学校と仲良くしていけたらなと思っています。学校が行っていることが地域の励みになっています。またそれが地域の活性化、発展にもなっていると思います。